

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

英訳（1問）、語句整序（3問）、本文中からの抜き出し（1問）以外はすべてマーク式

## 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

※ここ5年の大問Ⅱ～Ⅴの総語数は、「2,466→2,620→2,615→2,695→3,360（過去最多）」である。

## 出題の特徴や昨年との変更点

- ・語数的には「大幅増」であるが、大問構成（会話文1・読解総合4）や出題内容・設問形式に大きな変更はない。ただし、「英文量や設問数」といった分量的な負担が大幅に増えたので「難化」したといえる。
- ・マーク式の設問は、内容や形式に大きな変化はないが、英文のワード数が増加したこともあってか、設問数も2023年度の58から66に増加している。記述式の設問としては、「英訳」「語句整序」「本文中からの2語の抜き出し」が出題されている。語句整序はすべて、英文の一部を埋める形式のもので、2023年度と同じ3問（2022度は4問）が出題されている。
- ・英文中に含まれる日本語の部分を英訳するという、1978年度から出題されてきた商学部伝統の和文英訳問題は、2021年度と2022年度には出題されなかったが、2023年度に復活して、2024年度でも引き続き出題されている。2023年度同様、大問Ⅰの会話文で出題されており、「5分前まで何も聞いていませんでした」を英訳するもので（解答欄には主語のIが与えられており、動詞hearを適切な形で用いて全体を7語で完成させるように指示されている）、商学部独自の形式といえる。
- ・2018年度や2019年度などで出題されていた「本文中からの抜き出し」が、2023年度に復活して、2024年度でも引き続き出題されている。

## その他トピックス

- ・商学部の定番である「TF型の内容真偽」問題は、2023年度は出題されなかったが、大問Ⅳで復活した。
- ・2023年度の大問Ⅱで出題された「記述式の書き換え」問題は出題されなかった。

## ＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	その他	会話文「商談のダブルブッキング」	空所補充、同意表現選択、語句整序、和文英訳 設問1の空所補充と2の同意表現は、会話の流れを理解することはもちろんだが、選択肢そのものの理解も問われている。設問3の語句整序は不足語を1語補うもの（解答欄には8語分のマスが用意されている）。設問4の和文英訳は2023年度のI would (not) (have) (been) surprised (if) we (had) (not) received (any).と同様に、書くべき英文は思いつきやすいものである。	やや難
II	読解総合	「インターネットを変えることができたかもしれないボタン」 (745 words)	語義選択、内容一致・不一致、語句整序、タイトル選択 “Oh, Yeah?”ボタン（最終的にはいまの“Like”ボタンになった）にまつわる文章で、内容は興味深いものである。設問1の語義選択が文章を読みやすくしているし、設問3の語句整序でもキーワードとなる approximation が3番目の語として与えられているので解きやすい。	標準
III	読解総合	「超富裕層の“玩具”がもたらす環境汚染」 (911 words)	語義選択、空所補充、内容説明、語句整序、内容一致 設問3の that sacrifice の内容説明は文脈の理解度を試す良問である。設問4の語句整序は「2語不要」という条件付きで、ここでの toys が superyachts and private jets を指すことを理解する必要がある。設問5の3では記事の要旨（central message）が問われている。	標準
IV	読解総合	「AIが提示している倫理的課題（バイアスや操作）に対処する方法」 (828 words)	内容真偽、同意表現選択、語義選択、空所補充、内容一致・不一致 復活した内容真偽を含め、設問数が21と非常に多いので、本文と設問とを照らし合わせながら効率よく解いていく必要がある。	やや難
V	読解総合	「リーダーシップにおける4つのスタンス」 (876 words)	空所補充、語義選択、抜き出し、内容一致 大問IV同様、設問数が17（記述式1問を含む）と多いので、例年のペースで大問Iから順に解いていくと時間が足りなくなったと思われる。空所補充が8問（前置詞関連が4問）と多いのもこの大問の特徴といえる。設問4の「抜き出し」では「4つのスタンス」のうちあてはまるものを選ぶ（設問5の4も Lean Withに関連する）。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

大半の問題は標準レベルの読解力で対応できるが、2024年度については、英文の総語数が3,000を大きく超えるうえに、設問の数も種類も多いので、試験時間内に解答するには、かなりのスピードで読み進めていくことが要求される。700～800語程度のさまざまなテーマの英文を用いた長文読解問題に数多く取り組み、英文中の設問に関連した箇所にも注意しながら解答する訓練をしておくことが必要である。